

# 第54回インナーゼミナール大会

## 研究計画書

ゼミ名	上島ゼミ	チーム名	ハリソン上島
タイトル	衣料ロス		
テーマ群	c) 公共経済 e) 産業・企業		
メンバー	池田昂正、石田匠、鎌谷颯太郎、鎌野杏由璃、河野姫菜、檀浦光、深田誉喜、藤原颯士、山西拓也		
研究計画内容	<p><b>【研究背景】</b></p> <p>日本では、1年間に約10億枚の新品の服が、一度も消費者の手に渡ることがないまま捨てられている。環境省の調査によると、2020年の衣料品の国内新規供給量81.9万トンに対し、その約9割に相当する計78.7万トンが事業所および家庭から手放されている。このうち、廃棄物として処分されたものが51.2万トンにのぼる。</p> <p>結果として、過酷な労働環境と製造から運送、廃棄にいたるまでのCO<sub>2</sub>の排出が生じている。本来、衣料品はリユースとリサイクルを行えば廃棄する必要がない商品である。私たちは、この問題の解決方法と今後のアパレル企業の在り方について考える。</p> <p><b>【研究内容】</b></p> <p>まず、衣料品について過剰生産と過剰消費が生まれる仕組みを明らかにする。次に、手放された衣料品がどのようにリユース、リサイクルおよび廃棄されているのかについて現状を調査する。そして、リユースとリサイクルが進まない理由を述べる。最後に、適正生産をもたらし、再利用を促す解決策を提示する。生産から廃棄にいたるまでの衣料品の流れから、そこに潜む労働問題や環境問題について考える。</p> <p>具体的には、学生に対して衣料品に関するアンケートを実施する。「何を基準に購入するか」、「中古品として販売したことがあるか」、「ユニクロの回収サービスを知っているか」など調査によって衣料ロスに関する意識を問う。さらに、売れ残り在庫を減らす企業の工夫をインタビューで調査する。</p> <p><b>【期待される効果】</b></p> <p>アパレル産業は石油産業に次ぐ、世界2位のCO<sub>2</sub>排出産業である。衣料品の購入時や廃棄時の意識を変化させ、衣料ロスを減少させることで循環型社会の実現に近づき、SDGsの達成に貢献できる。</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・仲村和代 藤田さつき (2019) 「大量廃棄社会 アパレルとコンビニの不都合な真実」 (光文社新書)</li><li>・中村葉純 (2023) 「衣類の大量廃棄問題-持続可能なアパレル産業の実現のために企業が取り組むべきことは-」 <a href="https://tanimoto-office.jp/seminar/W11_thesis/NAKAMURA.pdf">https://tanimoto-office.jp/seminar/W11_thesis/NAKAMURA.pdf</a>、2024年10月23日閲覧</li><li>・日本総合研究所 (2021) 「環境省 令和2年度 ファッションと環境に関する調査業務-「ファッションと環境」調査結果-」 <a href="https://www.jrco.or.jp/research/2021/01/st_fashion_and_environment_r2gaiyo.pdf">st_fashion_and_environment_r2gaiyo.pdf</a>、2024年10月23日閲覧</li></ul>		